

令和6年度 水道事業会計
予算編成方針

我孫子市水道局

はじめに

我孫子市水道局は、昭和 43 年に水道水の供給を開始しました。当初は水需要の急増に対処するため、水道施設の新設を行う拡張事業に取り組んできました。近年では人口減少などの社会情勢の変化に伴う水需要の減少や水道施設の老朽化への対応が求められるようになり、水道施設の更新を目的とした改良事業を中心に事業を推進しています。

国は、水道の基盤強化を図るため、平成 30 年に水道法の大幅な改正を行いました。この動きを踏まえ、本市は平成 30 年度末に我孫子市水道事業ビジョン（以下、「水道事業ビジョン」という。）を策定し、50 年先を見据えた水道事業の将来像を示しました。あわせて、我孫子市水道事業基本計画（以下、「基本計画」という。）および我孫子市水道事業経営戦略（以下、「経営戦略」という。）を策定し、令和元年度から令和 10 年度までの水道事業経営の方針と施策、事業計画を具体的に示しました。

現在、我孫子市水道局はこれらの計画に掲げた 3 つの基本目標（安全、強靱、持続）と 6 つの基本方針に基づき施策を実施しています。

1. 令和 4 年度決算の概況および令和 5 年度上半期の経営概況と今後の見通し

①令和 4 年度決算の概況

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の波が繰り返される中、ウクライナ情勢を契機とした原材料やエネルギーの価格高騰に、市民生活や水道事業運営に大きな影響が及ぼされた 1 年となりました。しかし、これまで高まっていた水需要は次第に落ち着きつつあり、令和 4 年度の年間給水量は前年度に比べ 11 万 8,798 立方メートル減の 1,288 万 7,651 立方メートルとなりました。

これに伴い、水道事業収益のうち、水道料金を主とする営業収益は 20 億 244 万 8,503 円（税抜。前年度比 1.7%の減）となりました。

この結果、水道事業収益は 25 億 3,847 万 5,356 円（税抜。前年度比 1.4%の減）、水道事業費用は 22 億 9,536 万 6,808 円（税抜。前年度比 4.0%の増）となり、水道事業全体の収支では 2 億 4,310 万 8,548 円の当年度純利益を計上しました。しかし、水道事業の根幹を成す営業収支はマイナス（営業損失）であり、営業収支の損失を営業外収益で賄う状況が続いています。

②令和 5 年度上半期（4 月～8 月）の経営概況

令和 5 年度前半期（4 月～8 月）の給水量累計は 539 万 1,793 立方メートルでした。新型コロナウイルス感染症拡大以前（令和元年度の同時期）と比べると 13 万 2,895 立方メートル（率にして 2.5%）増加していますが、前年同時期（令和

4年4月～8月)に比べると1万4,230立方メートル(同0.3%)減少しています。これに伴い、給水収益も令和5年度上半期累計では9億968万7,768円と、前年同時期に比べ1,994万6,484円(同2.1%)減少しました。

③今後の見通しについて

新型コロナウイルス感染症により一時的に増加していた給水量は落ち着きを見せ始めました。また、人口減少や節水型機器の普及などの影響も著しくなっており、令和5年度下半期以降の給水収益についても減少していく見込みとなっています。

今後、さらなる水道料金などの減収が進む一方で、水道施設の老朽化に伴う更新需要の増大により多大な資金が必要になり、組織力の向上や業務効率化などの経営基盤強化のための取組をはじめ、コスト縮減策や施設投資についても見直しを図っていますが、本市水道事業は一層厳しい経営状況が続きます。

このような状況に対応し、水道施設の計画的な更新を進めるため、基本計画および経営戦略を点検・総括し、計画期間の中間点である本年度において見直しを進めていきます。

2. 令和6年度予算編成方針

前述したとおり、本年度において、基本計画および経営戦略の見直しを進めています。令和6年度は、新たな計画に整合させる事業展開を基本に据え、予算編成についてもこれに留意して進めます。

令和6年度に予定している主な取り組みは次のとおりです。

浄水場や水道管路の整備事業では、計画した工事等について最大限、経済合理性を確保しながら執行していきます。改良事業にかかる資金の一部は、企業債の借入により賄う予定ですが、当該事業における適債性判断等を十分に協議・検討したうえで、所要の費用を見込むこととします。

このほか、水質事故や頻発する大規模災害などに即応できるようにするため、水道局の危機管理体制を強化していきます。

各業務においては必要性や実施手法を再点検し、費用対効果を検討したうえで所要額を積算していきます。

また、漏水調査を着実に実施し、有収率の向上に努めるとともに、経営の根幹である料金収入の確保と水道使用者の負担の公平性の観点から、料金未納者への電話催告や訪問など、徴収強化に努めます。さらに、水道未使用者に対してはホームページや広報紙を利用し、「安全でおいしい高品質な我孫子の水道水」を広報することで、井戸から水道への切り替えを促し、普及率向上に努めるなど収益面での取り組みも引き続き行い、健全かつ効率的な事業経営を図ってまいります。

【令和6年度の主な取り組み】

水道事業ビジョンに掲げた、3つの基本目標及び6つの基本方針に基づき、令和6年度は主に次の取り組みを実施します。

I. 安全

1. 良質な水道の維持

「我孫子市水道事業水安全計画」の活用や、「我孫子市水道局水質検査計画」に基づく水質検査を行い、水源から蛇口に至るまでの総合的な水質管理を行います。

また、自己水源（深井戸）の計画的な機能保全を図るため、「取水井維持活用方針」に基づき、13か所ある深井戸の浚渫工事を計画的に行っており、令和6年度は2か所の深井戸について浚渫工事を行います。今後も継続的に深井戸の維持管理を行い、深井戸の延命化に努めていきます。

II. 強靱

2. 施設強靱性の維持

浄水場整備では、令和5年度から6年度までの継続事業である「湖北台浄水場非常用発電機更新工事」及び「湖北台浄水場高度浄水処理設備監視操作制御盤及び活性炭制御装置盤更新工事」を引き続き進めるとともに令和6年度から7年度までの継続事業として、市内配水管の末端圧力を常時監視し、適正な配水圧力を確保するため「圧力末端局更新工事」を行います。

水道管路整備では、船戸・中峠などの各地区で、経年配水管路を耐震性の優れた水道管に布設替えする工事を実施します。また、岡発戸地区では基幹管路の布設替え工事を行います。布設替えする管路の総延長は約3kmの予定です。

3. 災害対応の強化

災害時に対応するため、県内水道事業体間における各種情報伝達訓練に参画するほか、市の総合防災訓練等では市民と連携した応急給水訓練を行います。また、災害や水質事故等に即応する危機管理体制強化のため局内職員の対応訓練を行うほか、災害時に必要となる資機材の整備も進めます。

III. 持続

4. 事業継続性の確保

水資源の適正運用に向けて、北千葉広域水道企業団からの受水と自己水源（深井戸）の運用コストや災害時等の対応を踏まえた、取・受水管理を引き続き行います。

このほか、浄水有効利用のための漏水調査の実施等、継続的な漏水防止対策に引き続き取り組みます。

業務効率化方策では、「浄水場設備運転及び維持管理業務等包括委託」及び「料金・給水・会計業務等包括委託」など官民連携の推進により、引き続きお客様サービス向上と業務効率化に努めます。

また、次世代の水道実務を担う人材の育成のため、職責に応じ必要な研修を実施します。

5. 財政健全性の確保

将来にわたり長期間使用する水道施設の整備に要する費用の負担を、世代間で平準化するために、引き続き企業債を活用します。

6. 将来につなげる新施策の考察

IOT技術を活用したスマートメーターなど新技術の動向に注視し、引き続き導入に向けた調査・研究を進めます。また、SDGs（持続可能な開発目標）17の目標のうち、主に「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」に取り組み、安定的に水道水を供給できるよう災害時における応急給水体制の充実を図ります。さらに、総合的な取り組みとして、使用電力の低減や事務で使用する紙の減量に努めるなど、SDGsに向けた取り組みを推進します。